

第2回葛飾区スタジアム構想事業検討委員会 会議概要

1 会議の概要

日 時：令和8年8月10日（月）16:30～18:00

場 所：葛飾区役所新館7階 705・706 会議室

出席者：上林委員、後藤委員、植田委員、小野委員、腰塚委員、鈴木委員、高柳委員、福原委員、脇崎委員

欠席者：なし

2 議事

(1) スタジアムのあるべき姿について

第1回検討委員会の意見を踏まえ、日常利用、スポーツ環境、まちづくり、地域連携等の観点から委員間で意見交換

(2) アンケート及び地域住民との対話の場について

実施目的、対象、周知方法、回答に必要な情報の示し方等について委員間で意見交換

3 議事要旨

第1回検討委員会での議論を踏まえ、スタジアムのあるべき姿を引き続き検討するとともに、アンケート及び地域住民との対話の場の実施について議論を行った。委員からの主な意見は次のとおり

○日常的に利用され、地域に開かれた施設とすべきとの意見

- サッカーをはじめとする多様なスポーツに対応するとともに、イベントの有無にかかわらず、地域住民が自然に立ち寄れる施設とすることが重要。
- カフェ、レストラン、緑地、広場、親子で過ごせる空間など、日常的な利用につながる機能を検討すべき。
- スタジアムを単なる運動施設としてではなく、誰もが体を動かし、過ごし、交流できる場所としてまちに溶け込ませることが望ましい。
- 酷暑等の気候変動を踏まえ、屋根、空調、舗装・素材の工夫など、安心して利用できる環境づくりを検討する必要がある。

○本格的なスポーツ環境と多様な区民利用を両立すべきとの意見

- 観客と選手の距離が近く、臨場感や一体感を生み出せるフットボールスタジアムとしての機能が重要。
- トップアスリートが高いパフォーマンスを発揮できるよう、ロッカールーム、シャワー、リカバリー設備等の充実を検討すべき。
- 天然芝の質を確保しつつ、養生期間や多目的利用との両立を図るため、可動・着脱可能な芝や床等も選択肢として検討する必要がある。
- 子ども、障害者、高齢者、競技団体等が利用でき、さまざまなスポーツに触れられる環境とすることが望ましい。
- 区内外におけるスポーツ施設不足への対応や、多様な競技団体の活動環境の充実につながる施設とすることが望ましい。

○子どもの夢や地域への愛着を育む場とすべきとの意見

- 子どもたちが「ここでプレーしたい」と憧れを抱き、トップレベルの選手や競技に触れられる場所とすることが重要。
- 競技団体に所属していない子どもも、気軽に体を動かしたり遊んだりできる空間を併せて確保することが望ましい。
- 試合への参加・観戦や日常利用を通じて印象に残る体験を生み、地域への愛着形成や、まち全体で子どもを育む環境づくりにつなげる視点が必要。
- 使用後の芝を学校や地域で活用するなど、スタジアムの資源や活動を地域に広げる取組も考えられる。

○駅周辺や地域全体と一体となったまちづくりを進めるべきとの意見

- スタジアム内部だけでなく、新小岩駅、プロムナード※1、バスターミナル、公園、周辺商店街までを一連の空間として捉える必要がある。
- イベント時の人流や交通を地域全体で受け止め、来場者が周辺の飲食店等に立ち寄る流れをつくることで、混雑緩和と地域のにぎわいを両立させることが考えられる。
- 既存交通や将来の新たな交通の検討とスタジアム整備を連動させ、交通、人の流れ、まちの利用を一体的に検討すべき。
- 施設配置や広場の作り方について、暑熱対策を含む新たなオープンスペースのあり方を検討する必要がある。

○産官学民の連携と実証の場として活用すべきとの意見

- ・ 区、大学、地域企業、スポーツ団体、学校、地域団体等が連携し、課題解決や研究・実証、その成果の地域還元に取り組む場とすることが考えられる。
- ・ スタジアムをリビングラボ※2として活用し、スポーツ、健康、産業、まちづくり等に関するデータ収集や実証を継続的に行うことが期待される。
- ・ 展示会、交流会、企業・スタートアップ※3の情報発信、スポーツビジネスを学ぶ学生や関係団体の活動拠点など、区内産業や教育との連携を検討すべき。
- ・ 施設完成後だけでなく、構想・整備の段階から多様な主体が関わり、地域とともに育てる仕組みをつくることが重要。

○スタジアムと周辺施設との連携により、エリア全体で価値を創出すべきとの意見

- ・ スタジアム内に多くの機能を持たせる方法だけでなく、周辺施設や市街地との連携により、エリア全体で複合的な価値を生み出す考え方が重要。
- ・ 試合のない日の活用を含め、スポーツ、健康、交流、研究、就業、産業振興等の多様な用途を想定し、施設の稼働と持続的な運営につなげる必要がある。
- ・ 施設規模や費用、芝の管理等の制約を踏まえ、国内外の先進事例を参考にしつつ、実現可能性を検討すべき。

○葛飾区のシンボル・観光資源として地域活性化につなげるべきとの意見

- ・ スタジアムを葛飾区の新たなシンボル、ランドマーク※4として位置付け、区民の誇りにつながる価値を備えることが望ましい。
- ・ キャプテン翼をはじめとする地域資源や、23区初の本格的なフットボールスタジアムとしての特徴を生かし、区内外や海外からの来訪につなげる事が考えられる。
- ・ 来訪者を周辺地域や商店街で受け入れる環境を整え、交通だけでなく、地域通貨等も含めて地域内で人や消費が循環する仕組みを検討する視点が必要。

○アンケート及び地域住民との対話を、開かれた構想づくりにつなげるべきとの意見

- ・ アンケートは単純な賛否を問うものではなく、期待することや懸念、課題等を幅広く把握し、今後の検討に生かすものとして実施すべき。
- ・ 回答者が意見を考えやすいよう、第1回・第2回検討委員会での議論や検討状況等、必要な前提情報を分かりやすく示す必要がある。
- ・ 地域住民だけでなく、トップアスリート、競技団体、学校関係者、小中高生、大学生、社会人チーム、経済団体等からも意見が集まるよう、周知方法を工夫すべき。

- 区ホームページや SNS、関係団体等を通じて幅広く周知するとともに、居住地を限定せず意見を募ることが望ましい。
- 地域住民との対話の場では、構想の内容や進捗、委員会での意見を共有した上で議論し、集まった意見を今後の「あるべき姿」の検討に反映することが重要。
- 構想策定の初期段階から意見を受け止め、検討過程を公開することで、区民等が参加できる開かれたプロセスとすることが望ましい。

※注釈

※1 プロムナード：歩行者が快適に通行できるよう整備された歩道や遊歩道

※2 リビングラボ：地域住民や企業、大学等が参加し、実際の生活空間の中で実証や課題解決に取り組む仕組み

※3 スタートアップ：新しい技術や事業モデル、サービスにより急成長を目指す新興企業

※4 ランドマーク：地域の象徴となる建築物や施設

4 その他

委員からの追加意見は、引き続き事務局において受け付けることとした。